

『四年後の未来を考える』

課題提出締切 2018/8/7 24:00 (JST)

11827025

津田 海輝 KAIKI Tsuda

はじめに

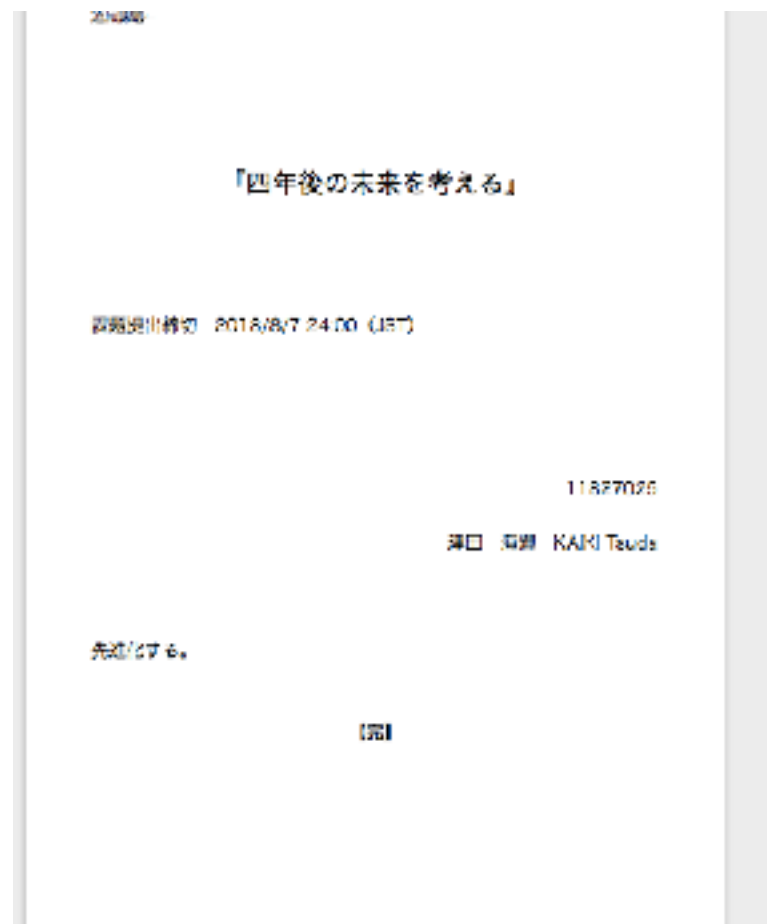
『二十世紀の豫言』と題された記事がある。1904年、20世紀初頭に、20世紀においてどのような進歩が起こるかの予想、つまりは『百年後の未来』の予想図として記された記事だ。

これがまあ、よく当たっている。予言…つまりは想像、予想であるにも関わらず想像力豊かな作家の描く未来を題材とした文学に比べ的中率が高いのは、文学的な充実よりも真実を第一とするべき新聞記者による記事だったからか。

予言の内容はおおよそ環境と技術の予想について書かれているが、百年ならいざ知らず四年間で劇的な変化は、双方見込み薄と見ていいだろう。それに、内容が丸被りというのも些か独創性に欠ける。そこで、『何について予想するか』ではなく『なぜこのような予想になったのか』、要するに変化する物の選定方法ではなくどうしてこう変化すると判断したか、という判断方法を参考にしようと思う。

諦めて参考にしないという手はない。

まず、分かり易いのは『欧米化』と『電力化』。この二つは言わば文明の象徴、纏めて『先進化』としても間違いではないだろう。これでレポート提出先がそらの発展途上国であったなら現代であっても四、五年先の予想など



で完結していたかもしれないが。字数制限を無視すれば。

京都造形芸術大学は先進国、しかもG7が一角『日本』の大体真ん中付近に建っている。別に『四年後の日本の未来を考える』ではないので課題のテーマには抵触しないだろうが。

他人事のように先進化などと言ってられない。日本は『先進化』という事象において、既に原本側に位置している。ここは四年後の未来の一端として、発展の最先端を進む我らが祖国日本国の四年後について考えていこうと思う。

さて、預言においては先進化と同等、もしくはそれ以上に分かりやすい事象を元に預言を記していた。新聞社が「正確な預言（＝予測）」を書けた理由は、これにあると言っていい。

傾向からの予測。傾いたグラフの延長線。情報を商売道具とする新聞社は、極めて性格なグラフが手元にあるような物だ。その中から伸びのいいグラフを選んで百年先までグイッと伸ばしてやれば良い。先進化ですら目に見えた『傾向』の一つとして、この項に含まれるかもしれない。

過剰な発展の予想が一部見られるのは、発展の最盛期の伸びが百年間とまではいかずとも長く続くと考えたのが、続いて欲しいと思ったのが原因だろうか。

基本的な未来予想の手法かもしれないが、情報化社会に生きるゆとり世代としては是非とも活用していきたい。とはいえ、情報化の大因であるインターネットの情報は玉石混交。新鮮かつ信憑性の高い情報源、例えば株でも見れば一目瞭然かもしれないが、あいにく筆者は株価の値動きをチャンネル変更の合図にして朝食を食べる派だ。ここで潔く株を始めるには元手が少しばかり寂しいので、こればかりは己のメディアリテラシーに任せるしかないだろう。

最後になるが、傾向からの予想の項において、記者の願望が予想を外す原因となったような事を書いたのが分かるだろうか。「続いて欲しいと思ったのが～」のくだりだ。

スタートアップ概論において、度々ニーズ、不便さ（Pain）などがスタートアップの種になる事が多い、といった事を聞く。「こうなって欲しい」「こう変わって欲しい」という願いが、筆者が見つけられた予言の判断要因の最後の一つだ。百年間の間に発展したものに限らず、発展の根幹はこの『needs』にあるといって良いだろう。多分。

しかし残念ながら、記事を書いたのは記者、技術の発展に貢献する技術者ではない。預言において、記事において、最も「未実現」が多かったのが「こうなって欲しい」という願いをもとに描かれた未来予想図であった。

記事に書かれていたもの以外にも、民衆の願いは数しれずあっただろう。百年前の人々の願いなど、それこそ新聞記事でもない限りお目にかかれない。

今、「願いを届けたい」という第一の願いが、全ての人間に発信力として与えられようとしている。「願いを叶える」ための最前線に、スタートアップのスタートラインに私たちは今、立っている。

ただ、単位を貰わないことには前に進めないのでもいい加減評価点を貰うべく本題に移ろうと思う。

確認

gOOgleの検索欄に『最近外』と打つと、『最近外国人が多い』という検索候補が出てくる。

最近外



削除

最近外国人が多い

最近外に出てない

最近外で銃声が聞こえる

最近外食しかしてない←

最近外人が多い

最近外科医からうちの家族に大事な話があったらしい

最近外来種殲滅運動が激化してる

最近外道フラッシュカウンターの巻き添えを食らった